

治療

シリコンリングを用いたピアスによる炎症性合併症の治療*

高橋 知之** 高橋 真理子

要約 生活習慣の欧米化につれてわ国でも若い女性を中心に急速にピアスが普及している。それに伴って種々の合併症を併発して医療機関を訪れる患者も急増している。1989年3月から1990年6月の間に感染症や接触皮膚炎を主訴として当院を受診した1141例に対して、医療用シリコン製のリングピアスをドレナージ材として試作装着した。経過観察が可能であった827例全例が完全治癒し、ピアスの使用が可能となった。一方32例の希望者に対して、最初の穴あけ手術に本品を使用したところ全例何ら合併症を併発することなく1カ月後には穴の上皮化を確認した。我々のシリコン製リングピアスによる治療は穴を確保しながら合併症を治すことができる新しい方法であり、また最初の穴あけ手術にも安全に用いることができるので報告した。

高橋知之、高橋真理子：臨皮 45：1009，1991

キーワード ピアス、感染症、接触皮膚炎、ドレナージ

ピアス式イヤリング(以下、ピアス)を使用するために耳垂に穴をあけること(以下、ピアッシング)によって起きる合併症は日常よく経験するが、穴を温存して完治させることは難しい。今回我々はシリコン製のリングピアス(以下、シリコンリング)を考案試作し、日常経験する頻度の高い感染や接触皮膚炎が主因と考えられる炎症性合併症を起こした症例に装着したうえで局所療法や内服薬による治療を行ったところ全例に著効を奏したので報告する。

シリコンリングの構造と使用方法

シリコンリングは柔らかい医療用シリコンで造られており、一端に金属環の付いたソケットを有する直径1mm、長さ60mmの棒状構造物で、合併症を起こしている耳垂の穴に棒状部を通して断端をソケット部に挿入した金属環をカシメてリングを形成し使用する(図1)。

一般に膿瘍が発生したときには速やかな切開排膿と効果的なドレナージが必要である。シリコンリングはドレナージを簡単かつ有効に持続的に行うためのドレーンである。合併症を起こした耳垂の穴にシリコンリングを挿入し、ドレナージを容易にしたうえで適宜局所軟膏療法を行うというのが本治療法の原理である。局所に使用する軟膏は感染症としての要素が強い症例は含抗生物質軟膏を、接触皮膚炎の要素が強い症例は含抗生物質・ステロイド軟膏を用いた。高度の炎症を伴う場合には抗生物質や非ステロイド系の炎症剤を内服処方したが局所治療を原則とした。局所の処置は患者本人に任せて医師は経過観察をするのみとした。すなわち患者に対して局所のドレナージを促すためにシリコンリングを回転させながら、非アルコール系の消毒液を浸したティッシュペーパーで患部を強く揉むように清拭したのち、指示された軟膏を塗布するように指導した。

* Silicon Ring Therapy For Inflammatory Complications Following Ear Piercing

** Tomoyuki TAKAHASHI and Mariko TAKAHASHI: 高橋医院(院長:高橋真理子)Takahashi Clinic, Tokyo, Japan(Chief: Dr M TAKAHASHI)

(連絡先) 高橋知之: 高橋医院(〒170 豊島区東池袋1-5-6 池袋三和東洋ビル4階)